

美しい箱根を守ろう

第55回美化大会

8月24日、箱根の森小学校屋内運動場で、環境先進観光地・箱根第55回美化大会を開催しました。

大会には、地元自治会や、小中学生、高校生など約350人が参加しました。

式典では、日頃観光美化やごみ減量に功績のあった方に表彰状や感謝状が授与された他、来賓の祝辞、箱根ライオンズクラブから町への寄贈も行われました。

また、今年で48回目を迎えた観光美化・自然愛護標語、作文、ポスターコンクールには、町内の小・中学校7校から標語の部に56点、作文の部に420点、ポスターの部に455点の応募があり、各学年の1等入賞者に賞状と記念品が授与されました。その中から、標語の部の轟木康稀君（箱根の森小1年）、作文の部を代表し、稲毛眞生君（箱根の森小2年）、佐藤望花さん（函嶺白百合学園中1年）が、それぞれ作品を発表しました。なお、この日を中心に町内の自治会をはじめ、各種団体の皆さんが清掃活動を行いました。

《受賞された方々》（敬称略）
「箱根を大切に美しくする」
貢献者表彰
・箱根町宮城野地区総合整備協議会
・宮城野木質観光協会
・土屋 克夫

「ごみ減量貢献表彰」表彰者
・さくら子ども会
観光美化・自然愛護標語、作文、ポスターコンクール1等入賞者
《標語・作文の部》
・轟木 康稀（箱根の森小1年）

・稲毛 眞生（箱根の森小2年）
・水田 旭飛（湯本小3年）
・市村 夏華（仙石原小4年）
・内堀 好花（箱根の森小5年）
・宇田 望花（函嶺白百合学園中1年）
・佐藤 望花（函嶺白百合学園中2年）
・細田 斐葉（函嶺白百合学園中3年）
・上田 京（函嶺白百合学園中3年）
《ポスターの部》
・四條 結愛（仙石原小1年）
・鈴木 流華（仙石原小2年）
・落合 瑛梨（仙石原小3年）
・北野谷 レイラ（仙石原小4年）



啓発用ポスターに採用された 宇田好花さんの作品

標語の部

箱根の森小学校 一年 轟木 康稀

すてるてを ひろうてにかえて きれいなまちへ

作文の部 函嶺白百合学園中学校 一年 佐藤 望花

私の考える美化

私は、小学校から箱根の学校に通っている。四季を肌身で感じながら成長してきた。

入学した頃、友達や親戚に学校の事を話すと、「すごい所まで通っているね。」と驚かれた。その「すごい」という言葉は、箱根の美しい風景を思い浮かべ発したのだろう。

私の通っていた小学校は、建物が高いがゴミは一つも落ちておらず、教室やろう下のすみずみまでいつもきれいだ。ゴミは持ち帰り、折り紙や色画用紙はゴミの部分がでないよう使える所は使うよう先生に教わった。入学した頃に感動したきれいな校舎を保つため、窓のさんが汚れていたら率先して拭き、校庭の落ち葉掃きや雪かきには積極的に参加した。

高学年ではトイレ掃除の担当になった。トイレは必ずみんなが使う場所であり、清潔に保つのはもちろんの事、快適に過ごせるような空間づくりを心掛けた。それからというもの私はトイレに敏感だ。

先日、強羅駅のトイレを使用

した際、トイレトペーパーの切れ端やゴミが散らかっていた為、それらを拾いゴミ箱に捨て、最後にトイレトペーパーの先たんを三角折りにした。三角折りは、私の「おもてなし」の心だ。箱根は観光客が多く訪れ、遠く外国からも足を運んでくれる。観光名所や風景を楽しんでいるのに、汚いトイレで水を差すわけにはいかない。些細な事かもしれないが、きれいにしたいと願うその気持ちの積み重ねが箱根の美しい自然の支えとなっているはずだ。

美化といえば、リサイクルや環境保護、街の清掃活動等があるがなかなか参加する機会がない。しかし、物を長く使用する事、エコバッグやマイ箸の利用、ゴミの分別など身近な美化活動は可能だ。日々、当たり前だと思ふ事を心がけ継続していく事は、思っているよりとても難しい。

また、思いやりの心を持ち、相手の喜ぶ顔を思い浮かべながら行う美化活動は、自分自身の心をもきれいにしてくれる。一

人一人の小さな行いが箱根の街を未来へとつなげ、この先も世界に誇れる場所となっていくだろう。

たいていの人が旅行や観光で箱根を訪れている中、私は毎日この地に通っている。朝が早く眠たい日も、気分の沈んでいる日も、箱根の澄みきった空や、色とりどりの花や草木に励まされてきた。登山電車から見えるあじさいや紅葉、冬の真っ白な雪景色は季節の移り変わりを教えてくれる。

時にはシカやサル姿が見えたり、学校にはイノシシが現れ、理科の授業で育てたゴーヤやジャガイモ畑が荒らされ、怖い思いをした事もある。

しかし、最近私は思う。箱根に山や自然が多いからだけではなく、街がきれいであるからこそ、動物達もそれを感じ引き寄せられているのではないかと。箱根の自然を守るための美化活動を考え、行動するにあたりまず自然の偉大さを知らなければならぬと思う。

私は幼少期、多くの自然体験をした。ジャガイモ堀りやキャベツ狩り、お米に関しては田植えから稲刈りまで行い、夏のキャンプでは雄大な富士山の下で乗馬をしたり、底が見るほど

・佐藤 綺羅（箱根の森小5年）
・宇田 好花（箱根の森小6年）
・小林 亜優那（箱根中1年）
・鷺頭 翼（箱根中2年）
・小林 莉菜（箱根中3年）

作文の部

箱根の森小学校 二年 稲毛 眞生

ぼくのじまんのばしよ

ぼくのはこねのじまんのばしよは、早川のさくら。4月に、一年生とぼくたち二年生で早川づつみに行きました。天気がよくて、早川の水のながれが、キラキラとかがやいていました。その早川の下に、さくらの木がずうっと先までつづいていきます。それがぼくのじまんのばしよです。1年生が「きれいなさくらだね。」とうれしそうに言ったので、ぼくも本とうにきれいだなとおもって、気もちがよかったです。ここは、よくなるるとライトアップされてもつときれいなんです。お父さんと、お姉ちゃん、妹と4人でよるの早川づつみのさくらを見に行きました。おきやくさんもよるののにたくさんきていました。みんな、はこねの春が大好きなんだとおもいます。

でも、このまえさんねんなことがありました。早川のながれ

透明感のある川で遊んだり。冬にはキャンプ場が雪景色に様変わりし、スキーを楽しんだ。キャンプ場や畑は何もせず放置していたら誰も訪れなくなり、せっかくなの自然の恵みが壊れてゆくだろう。自分の居る場所を大切に思い、きれいな物をきれいなまま存続させるのは容易な事ではない。キャンプ場には常駐している人がいて、その人は沢山の学生や子供達に自然の大切さや有難みを伝え、ゴミのポイ捨ての防止を呼びかけ環境保護に務めている。忘れる事の出来ない楽しい思い出となったのは、陰で支えてくれている人々の存在が大きいと気付いた。

私は、自然に囲まれた箱根に毎日通える事をぜいたくで幸せだと思っている。私も、畑やキャンプ場で働いている人々のように自分の行動に責任を持ち、周りの人達にも呼びかけ、環境破壊や汚染が起らないようにしていきたい。

箱根町は、美化憲章をかかげている。美しい箱根をよごさない、こわさない、育てようと。歴史の深い長く親しま

を見てみると、ビニールぶくろがおちているのを見つけた。わざとごみをおとす人はいないとおもいます。でも、ぼくのじまんのばしよがきたなくなるとさみしい気持ちになります。ぼくは、そのビニールぶくろをひろいたいとおもいました。でも早川は、はこねの大きな川で、ぼくが入ってとることは、できません。けっきょく、そのビニールぶくろはそのままになってしまいました。

ぼくは、どうしたらいいのかなどかんがえました。「ごみをおとさない・ごみがおちていたらひろう・みんなにもごみをすてないでとよびかける」とかんがえました。そうすれば、さみしい心がうれしい心になる人が多くなるとおもいます。ぼくは、はこねのじまんのばしよが、パワーアップしてもつとほしいです。だからぼくもがんばります。

れるこの箱根を造ってきた先人達は、目には見えない美化の精神を持って行動し、そして私達につなげてくれた。小学校に入学するまで縁もゆかりもなかった箱根の地を、今では心から愛し、大切に思っている。この美しい箱根が変わらず保たれるよう、今出来る事に加え、今後は街の美化活動にも参加していきたい。

これから出会う全ての人に、箱根の魅力を伝えていく事が、私を大きく成長させてくれた箱根への恩返しになるのではないかと思っている。

